

古代出雲歴史博物館展覧会 見どころ紹介

- 1 展覧会名 特別展「その後のヲロチとスサノヲ」
- 2 会 期 令和8年10月9日（金）～11月29日（日）
会期中の休館日 10月20日（火）、11月10日（火）、11月17日（火）
- 3 開館時間 10月31日まで 9:00～18:00
11月1日から 9:00～17:00
※ 10月9日（金）は開会式開催のため、当展覧会会場のみ10:00開場
＜開会式＞
日時／10月9日（金）9:00～
場所／古代出雲歴史博物館 中央ロビー
内容／主催者挨拶、来賓挨拶、来賓紹介、テープカット、学芸員による展示解説
- 4 会 場 古代出雲歴史博物館 特別展示室
- 5 観 覧 料 一般／1,100円（880円）、大学生／550円（440円）、小中高生／330円（260円）
※ （ ）内は20名以上の団体観覧料
- 6 ギャラリートーク 学芸員による展示解説（会期中の毎週日曜日14:00～15:00に開催）
10月11日、18日、25日、11月1日、8日、15日、22日、29日
定員／各回20名
参加ご希望の方は、電話・FAX・当館ホームページのイベント参加フォーム（しまね電子申請）のいずれかで事前にお申込みください。
定員になり次第締切りとなります。
（電話／0853-53-8600、FAX／0853-53-5350、HP／<https://www.izm.ed.jp>）
※ 参加には企画展観覧券もしくはパスポートが必要です。
※ 申し込まれた方は、当日の開始時刻に特別展示室入口付近にお集まりください。

7 内 容

アマテラスとともにイザナギから生まれた高貴な神でありながら、その荒ぶる性格ゆえに高天原を追われたスサノヲ。しかし地上世界に降り立つや、ヤマタノヲロチを退治して平安をもたらしました。出雲を舞台としたスサノヲのヲロチ退治神話は、数多い日本神話のなかでも最も広く知られ、人々を魅了し続けてきました。

後の時代に人々は、人の力では抗い得ない大規模災害・疫病の蔓延が起こるたびに、不安と絶望におそれおののく中でヲロチの記憶を思い出し、スサノヲの再来を強く願いました。同時に、ヲロチ退治神話は、悠久の時代の移ろいのなかで、現代の私たちには思いもよらない筋立てや、退治の方法へと形を変えながら語り継がれてきました。

本特別展では、こうした後の時代におけるヲロチ退治神話の変容を通して、単に「英雄神」と「悪神」という枠組みだけでは説明できないスサノヲとヤマタノヲロチの特質に迫り、先人たちが人智を超えた「大いなるもの」に対してどのように向き合い、受け容れてきたかを探ります。

（参考） ・展示件数 107件 うち重要文化財2件

8 見どころ

本展覧会は、スサノヲによるヲロチ退治神話の“その後”を、様々な側面から読み解こうとするものです。

- ①最古のヲロチ退治絵巻をはじめ、神話を表現した様々な絵画
- ②奇想天外な筋立てへと、変容した神話を語る多様な史料
- ③神楽面や「ヲロチの骨」など、現代の出雲に受けつがれた神話資料

9 展示の構成

プロローグ

スサノヲは、暴虐のかぎりを尽くす荒ぶる神か、それとも最強無比の英雄神か。時代や場面によって、その評価が大きく分かれることを紹介します。



くしな た ひめ やまた をろち
石本正「島根の神楽（櫛名田比売と八俣の大蛇）」
昭和43（1968）年 島根県民会館蔵

I. ヲロチの起源

太古の昔、人々にとって蛇とはどのような存在だったのか。蛇にまつわる古代の伝承や、遺跡からの出土品をもとに探ります。



蛇体装飾のある縄文土器
縄文時代中期 三鷹市蔵

Ⅱ. フロチ退治神話の展開

古代に書かれた『日本書紀』などの書物は、後の時代に様々な解釈が加えられました。これを通じて、フロチ退治のストーリーが複雑多様に展開していったことを紹介します。



ひかわだいしょうじんならびごほうせんじえんぎえ
「氷川大明神并宝泉寺縁起絵」(部分)
慶長10(1605)年 渋谷氷川神社蔵

Ⅲ. その後のフロチ

退治されたはずのフロチが生まれ変わった？酒吞童子はフロチの息子？壇ノ浦の合戦での宝剣喪失事件などを契機に、まったく新たなフロチ神話が生み出されたことを紹介します。



さいわいあまみなそこはいりへん いちぞくまみゆ
歌川芳虎「西海蜃女水底二入テ平家ノ一族二見」(部分)
弘化元(1844)年
早稲田大学坪内博士記念演劇博物館蔵

IV. 出雲のスサノヲとヲロチ

ヲロチ退治の舞台となった、八雲立つ出雲。出雲独自のスサノヲ神話・ヲロチ退治神話が育まれ、それが出雲の神楽にも影響を与えたことを紹介します。



あらかずきさい かぐらめん じゃがしら
荒川亀斎「神楽面 蛇頭」

明治 29 (1896) 年頃 山王寺本郷神楽社中蔵

V. 救いの神 スサノヲ

仏教の神・牛頭天王と同一視され、信仰されていたスサノヲ。疫病などの災いをはらうため、人々が、勇猛な神の力による救いを仰いでいたことを紹介します。



まつもとときさぶろう いきにんぎょう すさのをのみこと
松本喜三郎「生人形 素戔鳴尊」

明治 8 (1875) 年

桐生市本町四丁目自治会蔵